

陝川から「平和の火」

在韓被爆者に思いを

平和公園で原爆残り火採火式

在韓被爆者が多く住み韓国のヒロシマと呼ばれる陝川(ハプチョン)にともした、広島原爆の残り火の採火式

が5日、中区の平和記念公園の韓国人原爆犠牲者慰霊碑前であった。大阪市の市民団体が今月、陝川へ届けた

福岡県八女市星野村の「平和の火」を持ち帰った。その火を使ったキャンドルナイトも実施。在韓被爆者の思い

を込めて、ろうそくに火をともした。火は今後、全国にともされる。企画したのは「キャンドルナイトワンピ

ス実行委員会」(事務局・大阪市中央区)。以前、韓国で交流した被爆者の「無関心が一番つらい」という言葉が忘れられなかった吉沢武彦代表(32)が、「陝川から持ち帰った火を広めることで、多くの人が在韓被爆者のことを知るきっかけになるのではないかと企画した。



在韓被爆者に思いを込め、ろうそくに火をともす参加者ら。中区の平和記念公園で

星野村の「平和の火」は、第二次大戦中、広島で兵役に就いていた故山本達雄さんが、原爆で亡くなった叔父の遺品代わりに故郷に持ち帰ったもので、同市が大切に管理している。同会のメンバー9人が、3日から陝川に渡り、現地に「平和の火」を届けた。

吉沢代表が「真っ先に広島で採火式を行いたかった」と話すように、5日に帰国したメンバーが、その足で広島へ訪れ採火式を開催した。火は関西を中心に全国10道府県へ届けられ、日韓62会場で、キャンドルナイトを実施する予定という。

陝川に渡った垣内大樹さん(32)「大阪市は「火は、原爆を肌で

【寺岡俊】